

平成21年度
総合問題
(第二部 商経学科)

13:00～14:30

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子、解答用紙に手を触れてはいけません。
- 2 この問題冊子は8ページで、解答用紙は3枚あります。
- 3 試験開始の合図があったら、まずページ数、枚数を確認し（足りない場合は、手を挙げて監督者に知らせること）、全部の解答用紙に受験番号を記入してください。
- 4 試験中に、印刷の不鮮明な箇所やページの脱落などに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 解答は、解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 6 この問題冊子にある余白のページは、下書きなどに利用してかまいません。
- 7 試験終了後、問題冊子と受験票は持ち帰ってください。

- 1** 食料とエネルギーに関する資料 1～3 を参考にして、バイオマスエネルギーの長所と短所を述べなさい。

資料 1 食料需要とエネルギー需要

小麦は、7～8割が食用に供されると同時に、残り2～3割の規格落ち低級品小麦は飼料用に回され、トウモロコシと価格の引っ張り合いをする。しかし、小麦の供給がひっ迫してくると飼料に回される小麦が減少し、その分トウモロコシの飼料用需要が拡大する。そればかりでなく、トウモロコシはここ数年エタノール需要も急増している。こうしたエタノール・ブームを背景に米国の農家は、トウモロコシの価格上昇を見込み、大豆、春小麦、綿花などの作付けを減らしトウモロコシの作付けを大幅に増やした。

(中略)

米国では、現実にトウモロコシ・エタノールの生産が急増しているのも事実である。バイオマス燃料(注)の業界団体である再生可能燃料協会(RFA)によると、2006年の生産48億ガロン、2007年68億ガロンと急増している。エタノール工場数も2006年末の95から2007年9月末で129となり、さらに建設および増設中の86工場を加えると、生産能力は136億ガロンに達することになる。もっとも、米国のガソリン消費量は、年間1,450億ガロン弱であるから、これら生産能力がすべて稼動したとしても、ガソリン消費量の10%にも満たない計算だ。

(食料白書編集委員会『2008(平成20)年版 食料白書』より)

- (注) 「バイオ(生物資源)」と「マス(量)」から成る言葉で、化石資源を除いた生物起源の燃料を意味する。主に①サトウキビなどの糖質系、②穀物(トウモロコシ、小麦など)のデンプン系、③木材、草木などの木質(セルロース)系、④大豆油、パーム油、動物油脂などの油脂系、⑤家庭ごみ、産業廃棄物などの廃棄物系バイオマスに分かれる。

資料2 再生可能エネルギーと再生不能エネルギー

「再生可能エネルギー」とは、自然のエネルギーを利用し、常に更新が可能な非枯渇性エネルギー源を指す。海外では“Renewable Energy”と称されるもので、太陽、風力、水力、バイオマスエネルギーなどがこれに該当する。太陽の恵みを活かしたエネルギーである。石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料は資源量が有限であるので「再生不能エネルギー」、枯渇性エネルギー源である。

(前掲書より)

資料3 アメリカのトウモロコシ生産量、バイオエタノール生産量

【省略】

(農林水産省ホームページより)

【バイオマスのエネルギー利用の項目の「米国のトウモロコシ生産量、エタノール生産量の推移」から引用】

2 資料を読み、下の問いに答えなさい。

問1 「未成熟の大人」が増えた原因について著者はどのように考えているか、要約しなさい。

問2 著者は、人格的に未成熟な大人が増加したことによって規制の多い社会となったとし、それが世の中の「生きにくさ」を感じる原因だと考えている。「生きやすい」社会にするためにはどうすればよいと考えるか、著者の意見への考察を含めて、あなたの考えを述べなさい。

資料 大人になることの難しさ

【省略】

【省略】

(なだいなだ『ふり^{かえ}返る^{ゆうき}勇氣』より)
【筑摩書房，2006年，99～102ページ】

3 次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

【省略】

(広井良典「日本社会とコミュニティ」『書齋の窓』2008年7・8月号より)

【67 ページ】

問 下線部(ア) 「ウチ(身内)」と「ソト(他人)」の強い区別がなされると、社会に何がもたらされるかを述べなさい。

